

ダイヤモンド・ オープンアクセス

のための行動計画

2022年3月

翻訳:2023年8月



2022年3月
翻訳:2023年8月

ダイヤモンド・オープンアクセス
のための行動計画

DOI: 10.5281/zenodo.8252723

著者:

Zoé Ancion (French National Research Agency)
Lidia Borrell-Damián (Science Europe)
Pierre Mounier (OPERAS)
Johan Rooryck (cOAlition S)
Bregt Saenen (Science Europe)

翻訳者:国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小
委員会タスクフォース

Shigeki Sugita (Kyoto University)
Masako Suzuki (Kobe University)
Chizuko Naoe (Nagoya University)
Takuro Kawamura (Hiroshima University)
Kayoko Hanazaki (Kobe University)
Tomomi Ojiro (University of Tokyo)

謝辞:著者らは、2022年2月2日にオンラインで開催された「ダイ
ヤモンド・オープンアクセスに関するワークショップ」の参加者と、
オープンサイエンスに関するScience Europeのワーキンググル
ープメンバーの両者からのフィードバックに感謝しています。

編者:Johan Rooryck (cOAlition S), Iwan Groeneveld
(Science Europe)

デザイン:Iwan Groeneveld (Science Europe), Laetitia Martin

この作品はクリエイティブ コモンズ表示4.0国際ライセンス
の下に提供されており、個別の著作権表示が付いているロゴ
やその他のコンテンツを除き、元の著者と情報源がクレジット
されている限り、あらゆる媒体での無制限の使用、配布、複製
が許可されています。このライセンスのコピーを表示するに
は、creativecommons.org/licenses/by/4.0/にアクセスする
か、Creative Commons, PO Box 1866, Mountain View, CA
94042, USAまでご連絡ください。



はじめに

この行動計画は、持続可能でコミュニティ主導のダイヤモンド学術コミュニケーション・エコシステムをさらに発展・拡大させるための優先的な行動を提供するものである。この行動計画は、分野の強みである文化や言語、学問分野の多様性を尊重する共通の原則、ガイドライン、品質基準を中心に、ダイヤモンド・オープンアクセスのジャーナルとプラットフォームを統合することを目的としている。研究者、編集者、研究機関は、この行動計画から恩恵を受けるだろう。

「ダイヤモンド」オープンアクセスとは、ジャーナルやプラットフォームが著者にも読者にも料金を請求しない学術出版モデルを指す。ダイヤモンド・オープンアクセス・ジャーナルは、コミュニティが主導し、学術界が主導・所有する出版イニシアティブを代表する。概して小規模で、多言語、多文化な、きめの細かい様々な学術コミュニティにサービスを提供するこれらの学術誌やプラットフォームは、書誌多様性の概念を体現している。これらすべての理由から、ダイヤモンド・オープンアクセスのジャーナルとプラットフォームは、その性質と設計において、公平である。

画期的な「[オープンアクセス ダイヤモンドジャーナル調査](#)」(OADJS) は、この出版エコシステムの膨大な規模と範囲を明らかにした。世界中で推定17,000~29,000誌(2021年)のダイヤモンド・オープンアクセス・ジャーナルが、学術コミュニケーションに不可欠な要素となっており、論文出版総数の8~9%、オープンアクセス出版の45%を占めている。

こうした明らかな強みにもかかわらず、ダイヤモンド・オープンアクセスは、ジャーナルやプラットフォームの技術的能力、管理、知名度、持続可能性に関する課題によって阻まれている。学術コミュニケーション分野のこの部分を適切にサポートするためには、研究者、RFO(研究助成機関)、RPO(研究実施機関)、大学図書館、大学出版部、教職員、部門、研究機関、学会、省庁、サービスプロバイダーの間で、より多くの対話とコミットメントが必要である。

この行動計画の目的は革新的で信頼性が高くアクセスしやすい出版サービスを提供するダイヤモンドジャーナルのキャパシティを大幅に向上させることを目的としている。OADJSの勧告を受け、この行動計画は、ダイヤモンド・オープンアクセスのさらなる発展のために、効率性、品質基準、キャパシティビルディング、持続可能性という4つの中心的要素に焦点を当て、ダイヤモンド・オープンアクセスを支援することを目的としている。

1. 効率性

ダイヤモンド・オープンアクセスは現在、比較的孤立したジャーナルやプラットフォームから成る群島のような様相である。これらは、共通のリソースを共有することで恩恵を得ることができるだろう。効率性と規模の経済性を高めるために、この行動計画では、以下の行動を実施することを提案する：

- ▶ 文化の違いや学問分野別の要件を尊重しつつ、インフラ、規格、方針、慣行、資金源の共有を促進することで、品質基準を柔軟に調整し、持続可能性を創出し、すべての利害関係者の信頼を高める。
- ▶ 技術サービスとその性能を、ダイヤモンドジャーナルとプラットフォームにとってより利用や相互運用がしやすく、合理化されたものにする。投稿システム、ジャーナルプラットフォーム、メタデータの整合性と相互運用性に特に注意を払う。
- ▶ 既存の組織、グループ、学会のネットワークを通じて、同じ分野、地理的位置、言語におけるダイヤモンドジャーナルやプラットフォーム間のシナジーを構築し、研究者と読者一般によりよいサービスを提供する。

2. 品質基準

ダイヤモンド・オープンアクセスのジャーナルとプラットフォームは、歴史的、文化的、学問的な多様性に根ざした品質基準を保証するために、それぞれ異なる慣行を有している。このようなエコシステム全体の品質レベルを高め、柔軟に整合させるために、この行動計画では、以下の行動を実施することを提案する：

- ▶ さまざまな組織 (OASPA、DOAJ、COAR、COPE、SPE、EASEなど) がすでに策定しているOA出版に関する既存の基準やベストプラクティスを柔軟に整合させる。これは、ダイヤモンドジャーナルを代表するコミュニティと共創的に行い、ダイヤモンド出版のための国際的な枠組み構築を目指すものである。
- ▶ 学術出版の7つの主要要素について品質基準を明確にし、ダイヤモンド・オープンアクセスのエコシステム全体でその整合性を探る：
 1. 資金調達とビジネスモデル
 2. サービスの効率性と品質保証
 3. 編集管理と研究の完全性
 4. 法的所有権、使命、ガバナンス
 5. コミュニケーションとマーケティング
 6. 多言語主義やジェンダー平等を含む多様性、公平性、包括性 (DEI: Diversity, Equity and Inclusion)
 7. オープンサイエンス (OS) の原則と実践に対する対応・遵守の度合い。
- ▶ ダイヤモンドジャーナルの品質基準を評価する自己評価ツールを開発し、ダイヤモンド出版の国際的枠組みへの準拠度を高める活動を支援する。

3. キャパシティビルディング

ダイヤモンド・オープンアクセスのジャーナルとプラットフォームは、編集・管理スキルの点でさまざまである。キャパシティ構築のために、この行動計画では、以下の行動を順に実施することを提案する：

- ▶ ダイヤモンド学術出版のためのツールスイートの作成を通じてキャパシティを構築する。これには、ダイヤモンド・オープンアクセスの編集者およびサービス提供者向けの研修資料、ジャーナルの品質基準、著者および査読者向けの規定、共通アクセスポイントで公開されるガイドラインが含まれる。
- ▶ 研究者、RFO (研究助成機関)、RPO (研究実施機関)、大学図書館、大学出版部、教職員、部門、研究機関、学会、省庁など、ダイヤモンド・オープンアクセスに関わるすべてのステークホルダーを巻き込み、ダイヤモンド・オープンアクセスにおけるそれぞれの役割を認識させる。
- ▶ ダイヤモンド・オープンアクセス出版について、ターゲットを絞ったコミュニケーション戦略で研究者に働きかける。
- ▶ 30カ月以内に、対象となるジャーナルと編集者にさまざまなレベルで技術、資金、トレーニングサービスとリソースを提供する、専門の非営利団体Capacity Centre for Diamond Publishing (CCDP) を設立する。CCDPのガバナンスは、ダイヤモンドエコシステムの分散化された多様な性質を適切に考慮し、透明性のある、ステークホルダーのコミュニティを代表するものとする。

4. 持続可能性

ダイヤモンド・オープンアクセスのジャーナルやプラットフォームは、研究者が所有し、主導しているが、その法的位置付けやガバナンスの詳細は明確にされていないことが多い。さらに、その収入源は、現物分配 (ボランティア労働や設備・サービスの提供)、さまざまな種類の機関による資金提供、一時的な助成金などの寄せ集めに依存していることが多い。ダイヤモンド・オープンアクセス出版のエコシステムの持続可能性を向上させるために、この行動計画では、以下の行動を実施することを提案する。

- ▶ ダイヤモンド・オープンアクセス・ジャーナルのタイトルやプラットフォームの所有権やガバナンスを法的に認め、保護することを確実にする枠組みを構築し、コミュニティ主導の学術活動の持続可能性をより保証されたものとする。
- ▶ ダイヤモンド・オープンアクセスのコストを把握し、責任ある透明性の高い財務管理を推進することで、ジャーナルの管理者、機関、資金提供者に対して、収入、支出、財務上の持続可能性を報告する。すべてのサービス提供者は、これらの原則を遵守する必要がある。

- ▶ オープンアクセス学術出版のさまざまな形態の中で、よりバランスの取れた財政支援の配分をするほか、より適切で透明性の高いモニタリングと利用可能な資金の配分を推進する。
- ▶ ダイヤモンド出版のあらゆる運営コストが、RFO (研究助成機関)、RPO (研究実施機関)、大学図書館、大学出版部、教職員、部門、研究機関、学会、そして政府機関といった組織のネットワークによって担われるよう努める。
- ▶ これらのさまざまな資金源をダイヤモンド・オープンアクセス・ジャーナルやインフラ、そしてポイント3で提案されたCapacity Centre for Diamond Publishing (CCDP) に提供するような、協調的な資金メカニズムを構築する。

本行動計画について

この行動計画は、ANR、cOAlition S、OPERAS、Science Europeによって作成され、2022年2月2日にオンラインで開催されたダイヤモンド・オープンアクセス・ワークショップにおいて世界各国の専門家ならびにScience Europeオープンサイエンスワーキンググループのメンバーによって議論・吟味された。彼らのコメントは多くの改善につながった。このワークショップは、Science EuropeがcOAlition S、OPERAS、ANRと共同で開催したものである。このワークショップは、フランス高等教育・研究・イノベーション省の後援を受け、欧州連合理事会議長国としてフランスが開催予定のパリ・オープンサイエンス・ヨーロッパ会議 (OSEC) の準備として行われた。

この行動計画の一部は、初期的にはホライズンヨーロッパのプロジェクト「Developing Institutional Open Access Publishing Models to Advance Scholarly Communication」(DIAMAS、2022-2025) の傘下で進められ、最終的にはダイヤモンド・オープンアクセスのコミュニティが長期的な実施を引き継ぐことを目指す。公平で、コミュニティが主導し、学界が主導・所有する学術出版インフラは、世界の研究コミュニティが、研究コミュニティによる、研究コミュニティのための学術コミュニケーションシステムを担うことを可能にする。



